

百年史制作よもやま話



伝統と革新の、その先へ
1928 - 2028

みらいにつなぐ 市大の歴史



2024, SUMMER



鶴見キャンパス(2001年撮影)

鶴見キャンパスは、横浜市の理化学研究所誘致活動の一環として生まれた連携大学院構想によって、2001年に理化学研究所と同じ敷地内に設置されました。同年5月14日には多くの関係者を招いての開設式典が執り行われました。

みらいにつなぐ 市大の歴史

Vol.4



夏の金沢八景キャンパス（2006年撮影）

こちらの素材はデジタルアーカイブでご覧いただけます

リンク先のページから「横浜市立大学周年史デジタルアーカイブ」を選択してください。



Contents

- 3 鶴見キャンパス
- 4 歴史に名を遺す市大教員②
遠山茂樹先生
- 5 市大運動部の活躍
- 6 ここが違うよ！
金沢八景キャンパスの変遷
- 8 災害時の活躍～東日本大震災



2001年5月14日 鶴見キャンパス開設式典の様子

鶴見キャンパス

京浜臨海部に位置し、生命科学分野での研究拠点である鶴見キャンパスには、同一敷地内に理化学研究所があります。今回は、本学名誉教授である西村善文先生にヒアリングした内容をもとに、鶴見キャンパス開設の経緯等をご紹介します。

総合理学研究科の設置

理学系の学部と大学院を設けたいという文理学部理科を中心とした構想は、1960年代から芽生えていました。特に大学院設置の希望が次第に強くなり、1980年5月の

大学院総合理学研究科

理念と目的

21世紀に堪えうる新しい研究部門を文理学部理科と木原生物学研究所が共同して創出し、新しい学問分野を発展させる

理科将来計画委員会では、修士課程と博士課程を有する理学系大学院設置の必要性が討議されます。その後様々な議論を経た結果、目まぐるしく発展し、かつ学際的になってきた先端科学に対応するために、物理、化学、生物、地学、数学各分野の上に設置された旧来式の大学院ではなく、各分野の融合化を図った大学院総合理学研究科が1989年4月1日に設置されました。

鶴見キャンパスの開設

1900年代後半、理化学研究所にはゲノム科学統合研究センターの構想があり、設置場所が検討されていました。横浜市では当時、京浜臨海部の再編整備として「横浜サイエンスフロンティア」を計画中であったことから、横浜市も理化学研究所の誘致に乗り出しました。

現在の鶴見キャンパス

その後誘致活動が本格化し、同じキャンパスに横浜市立大学を設置する構想が生まれたのです。理化学研究所との連携大学院構想は両者の密接な協議の上策定され、2001年に鶴見キャンパスとともに大学院総合理学研究科生体超分子システム科学専攻が設置されました。

大限に活かし、最先端の研究を行っています。



NMR（核磁気共鳴装置）

参考文献

- ・横浜市立大学60年史編集委員会編『横浜市立大学六十年史』横浜市立大学創立60周年記念事業実行委員会、1991年
- ・横浜市立大学広報課編『横浜市立大学2024年大学案内』横浜市立大学アドミッションセンター、2023年
- ・西村善文先生ヒアリング回答の全文は、「横浜市立大学周年史デジタルアーカイブ」でご覧ください。
<https://ycu-history.repo.nii.ac.jp/records/2435>



2016年の鶴見キャンパス

歴史に名を遺す市大教員 2

とおやましげき 遠山茂樹先生

学内外に広く名を知られる先生方にスポットライトを当てる『歴史に名を遺す市大教員』シリーズ。今回は、文理学部教授で歴史学者であった遠山茂樹先生をご紹介します。

本学での活躍

1914年に生まれた遠山先生は、東京帝国大学文学部史学科で学んだのち、東京大学史料編纂所などを経て、1958年に本学文理学部教授に就任しました。在任中は、「近代史」「文化史」などの専門科目、一般教養の「歴史I」などを担当し、学生の求めに応じて講演なども行いました。

また、教員管理職の一員として、横浜市からの大学経営に係る合理化要求（1959年）への対応や大学紛争（1969年）において、学長を補佐する役割も担いました。



遠山茂樹先生

研究業績

遠山先生の研究は、明治維新から日本近現代史へと展開し、さらに歴史学の方法論や歴史教育論へと発展していきましました。『明治維新』（1951年）『戦後の歴史学と歴史意識』（1968年）『歴史学から歴史教育へ』（1980年）など、著書の多くが当時新聞で取り上げられています。

『昭和史』（1955年）の執筆

昭和初期から昭和30年までの昭和の時代について、政治・外交・経済の動きと国民生活を関連させる形で執筆されました。当時ベストセラーとなりましたが、同時に現在では「昭和史論争」として回顧される大きな論争を巻き起こすこととなりました。

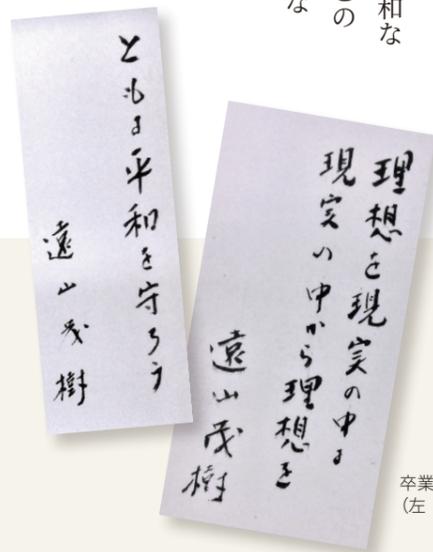
メディアでの発言

歴史学者である遠山先生は、当時の社会に対して多大な影響力を発揮します。歴史を学ぶことで、社会が私たちの思想や生活に影響を与えていることを白日の下に晒すべきと説き、政府による史実の歪曲あるいは教育統制に対し、断固として反対する姿勢を取りました。当時の新聞を紐解くと、紀元節復活や建国記念の日の制定、明治100年記念行事などに對して抗議の声を上げる様子が確認できます。また、家永三郎によって起こされた教科書裁判には、積極的な支援の姿勢を見せました。

遠山先生のメッセージ

学問・思想の自由のために国とすら戦った遠山先生です

が、普段は温和な性格だったとの記述が様々な資料で確認できます。学生に對しては、特に



卒業アルバムの遠山先生メッセージ（左：1961年、右：1962年）

参考文献

- ・原口清「遠山茂樹さんを偲ぶ」『日本歴史』（800）70〜75頁、2015年
- ・『関口泰の大学論：遠山茂樹教授横浜市大最終講義』（私製）、1979年
- ・「衰えぬ情熱にかっさい 遠山教授が最後の講義」神奈川新聞、1979年1月24日
- ・横浜市立大学60年史編集委員会編『横浜市立大学六十年史』横浜市立大学創立60周年記念事業実行委員会、1991年

市大運動部の活躍

Y専時代も大活躍!!

戦前、YCUの前身であるY専でも運動部の活動は盛んでした。市内だけでなく、関東・全国レベルの大会でも活躍し、中には端艇部のように全国大会二連覇を飾った部もあります。卓球部は1936〜1940年にかけて、市内4専門学校リーグ戦で無類の強さを誇り、5年連続10シーズン

の連続優勝を果たしました。

力走！箱根駅伝

お正月の風物詩となっている箱根駅伝。YCUも6回の出場経験があることをご存知ですか？
初出場は1954年の第30回大会。総合記録は14時間18分06秒で、出場15大学中14位でした。1955年から

は、照喜名実選手が4年連続で1区を任せられ、4年時の1958年（第34回大会）には区間2位でたすきをつなぐ活躍をしました。

近年の活躍

- ・最近の学生たちも、諸先輩方に負けてはいません！2022〜2023年の主な活躍といえば……
- ・オリエンテーリング部員、手権代表選考会3位入賞！
- ・ジュニア世界選手権の日本代表に！
- ・体育会スキー部女子チーム、第49回全国学生岩岳スキー大会アルペンスキーの部で総合優勝！
- ・横浜市立大学応援団チアリーダー部 Seagulls、USA School & College Nationals 2023で優勝！
- ・YCU チアリーディング部 YCU Elite 部員、ICU 世界チアリーディング選手権大会に日本代表として出場して3位入賞！

これからも市大運動部の活躍に注目です!!

主なY専運動部の活躍	
水泳部	第2回東日本高商大会で優勝（1931年）
陸上競技部	全国高商大会で3位（トラック種目は1位）（1937年）
卓球部	全国高商大会で決勝まで進む（1939・1940年）
端艇部	全国専門学校競漕大会で二連覇（1937年）
弓道部	全国高商大会で2年連続の2位（1937年）
庭球部	市内4専門学校リーグ戦で全勝優勝（1939年）



→ 第34回大会で日大の選手と死闘を繰り広げる照喜名選手（『箱根駅伝70年史』p.340より）



↑ 6区山下りで力走する露木富選手と伴走する照喜名選手（『箱根駅伝70年史』p.344より）

神奈川新聞の大型連載『箱根駅伝100回目の禪』に照喜名実さんのインタビュー記事が掲載されました！
【2023年11月16日】

- ### 参考文献
- ・横浜市立大学60年史編集委員会編『横浜市立大学六十年史』横浜市立大学創立60周年記念事業実行委員会、1991年
 - ・藤田剛志、江藤武人編『横浜市立大学商学部創基百年史』財界評論新社、1982年
 - ・関東学生陸上競技連盟編『箱根駅伝70年史』関東学生陸上競技連盟、1989年
 - ・横浜市立大学Webサイト「期待のホープ。日本代表選考会で3位！」
<https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/2022/20220617/orientiering.html>（2023年12月5日閲覧）
 - ・横浜市立大学Webサイト「体育会スキー部の女子チームが、歴史あるスキー大会で快挙！アルペンスキーの部で優勝を果たしました。」
<https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/20230410/seagulls.html>（2023年12月5日閲覧）
 - ・横浜市立大学Webサイト「横浜市立大学応援団チアリーダー部 Seagulls が USA Nationals2023で優勝」
<https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/20230410/seagulls.html>（2023年12月5日閲覧）
 - ・横浜市立大学Webサイト「ICU世界チアリーディング選手権大会で「3位」入賞！」
<https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/20230425/mitomiayuu.html>（2023年12月5日閲覧）

キャンパスが違おうよ！

金沢八景キャンパスの変遷

多くの市大生が足を運ぶ「金沢八景キャンパス」。令和の今は、本校舎やシーガルセンター、いちようの館、YCUスクエアなどが建ち並ぶ、金沢八景キャンパスの今昔をご紹介します。

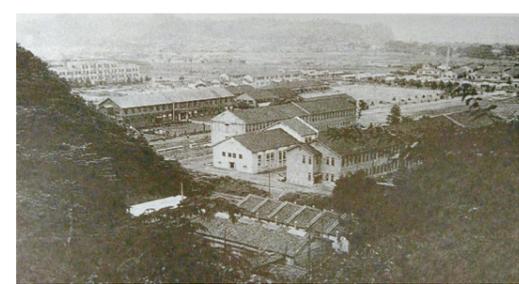
前身が使用していた元海軍航空技術廠の跡地に校舎が建設されることとなりました。

当時の住所は「横浜市金沢区六浦町4646」で、既存の建物のほかに教授研究室・教室・図書館などが建設されたそうです。

1949年、横浜市立大学商学部を設置認可にあわせて、横浜医科大学予科（医学部の



2019年の金沢八景キャンパス航空写真 (YCUブランドガイドより)

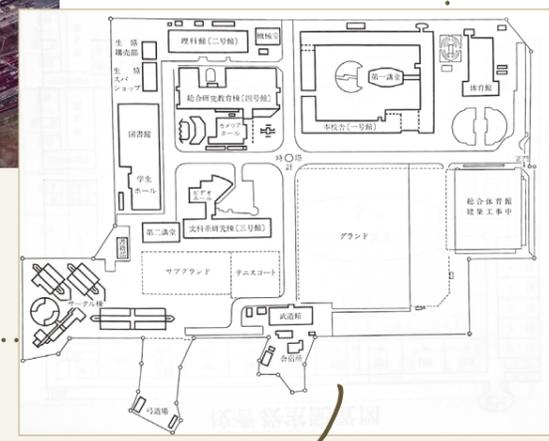


1954年の金沢八景（瀬戸）キャンパス全景。写真の奥に見える「銀杏並木」は、1948年に横浜医科大学予科の学生が植えたもののため、まだ背の低い若木のようにみえます。（『横浜市立大学六十年史』より）

1980年代後半



文科系研究棟（1978年竣工）、総合研究教育棟・カメラリアホール（1984年竣工）など、今も残る建物が1980年代後半の構内図に登場しています。



2000年代

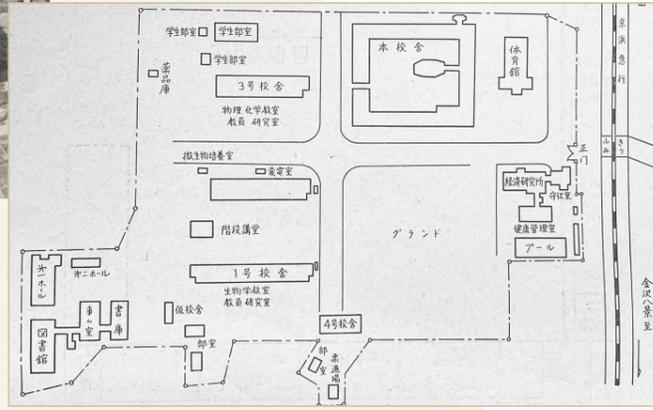


2004年には、大学創立75周年記念事業のひとつとしていちようの館が建設され、2014年に理学系研究棟、2016年にYCUスクエアが完成し、2017年に理科館が解体され、今のキャンパスの形となりました。

1960年代



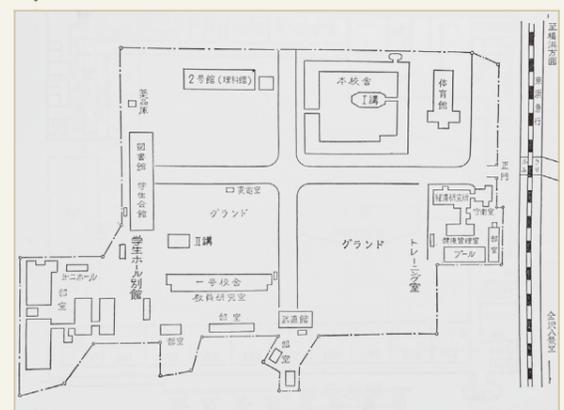
1960年代前半は、図書館は今のサークル棟がある場所にあり、1965年に新たな図書館と学生ホールが完成しました。



1980年代前半



1970年代



1970年、金沢高校側のエリアに理科館（2号館）が建設され、現在の総合研究教育棟・カメラリアホール周辺は緑が溢れる学生の憩いの場所となりました。



学生便覧と航空写真からみる
金沢八景キャンパスの変遷

参考文献

- 横浜市立大学60年史編集委員会編『横浜市立大学六十年史』横浜市立大学創立60周年記念事業実行委員会、1991年
- 横浜市立大学事務局総務部学生課編『学生便覧（1966年～1989年）』横浜市立大学、1996年
- 齊藤毅憲「Y専（横浜市立横浜商業専門学校）の歴史」横浜市立大学論叢、社会科学系列、横浜市立大学学術研究会、Vol. 170、No. 3、135～211頁、2019年
[https://doi.org/10.15015/0001709\(2024\)1月16日閲覧](https://doi.org/10.15015/0001709(2024)1月16日閲覧)
- 大学の航空写真（一部）は、「横浜市立大学周年史デジタルアーカイブ」で閲覧ください！
<https://ycu-history.repo.ni.ac.jp/>

災害時の活躍〜東日本大震災

東北方太平洋沖地震発災

2011年3月11日

14時46分

ゆつくりと大きな横揺れを足元に感じた直後、建物がガタガタと大きな音を立てました。

三陸沖で発生した東北方太平洋沖地震によるもので、金沢八景キャンパス付近は夜まで大規模な停電に見舞われ、福浦キャンパスでは地面の液状化があちこちで発生しましたが、震源に近い東北方の被害状況は、その比ではありませんでした。

地震の規模は国内観測史上



救援活動時の気仙沼市の様子

最大のマグニチュード9.0、最大震度7を記録しただけに留

まらず、高さ10メートル超の大津波が東北沿岸部などを襲ったことで、甚大な被害がもたらされ、戦後最悪の災害となりました。

本学の対応

12日から医師等の職員を派遣したほか、2病院において被災者を受け入れるなど、さまざまな対応を行いました。

- ・DMATの派遣(羽田空港・花巻空港)
- ・横浜市医師会を通じた医師派遣
- ・医療救護班の派遣(気仙沼市)
- ・横浜市内老健施設への転入者受入応援
- ・原発事故に対する消防活動の医療監督
- ・横浜市消防隊派遣隊員のメ

- ・ディカルチエック
- ・インド医療チームの通訳ボランティア
- ・精神科医チームの派遣(福島県立大学)
- ・放射線科医等の派遣(福島県立大学)
- ・附属病院、センター病院での被災者受入 など

DMATって

なんだ??



医師、看護師、業務調整員で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チーム。

東日本大震災を受け、災害拠点病院は2014年3月までにDMATを保有し、派遣体制を整えることが義務化されました。

本学は、2006年にセンター病院が、2014年に附属病院が神奈川DMATに指定されています。

派遣された隊員や医療スタッフのサポートも大事な活動!

被災者の心のケアだけでなく、震災でダメージを受けた精神医療システムの援助など複合的な支援が必要



被災地に向かったドクターカーと救援活動場所

参考文献

- ・「DMATとは」厚生労働省DMAT事務局Webサイト
- ・<http://www.dmat.jp/dmat/dmat.html>
- ・(2024年2月19日閲覧)
- ・「東日本大震災にかかる対応について」『公立大学法人横浜市立大学平成23年度第1回経営審議会』2011年
- ・「横浜市大附属病院 神奈川DMATに指定災害医療体制を強化」『タウンニュース』2014年
- ・「第5班災害救援活動報告」
- ・「福島における精神医療支援活動の経験―東日本大震災から被災地支援を考える」『日本職業・災害医学会会誌』61(2)、2011年

100周年記念事業へのご協力をお願い

横浜市立大学は2028年に創立100周年を迎えます。未来に向かって本学が発展し続けるため、4つの記念事業プロジェクトを推進しています。ぜひ、本学の取組にご賛同いただきご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

問い合わせ先 横浜市立大学基金担当：045-787-2447

詳細はこちら

